

病害虫名 発生量	発生消長の一例・防除時期の目安									防除上の注意事項等	
	8月						9月				
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬		
ホウレンソウ	べと病	← 1作1回は防除を実施 →									<ul style="list-style-type: none"> ・盆過ぎ以降は低温と多湿の発生条件が重ならないよう管理する。 ・8月中の発生は稀ではあるが、感受性品種では1作1回程度の防除に努める。
	発生量: 並	← 定期防除 →									
ケナガコナダニ	発生量: 並	← 定期防除 →									<ul style="list-style-type: none"> ・餌となる有機物の多用は避ける。 ・盆過ぎ以降の気温の低下とともに被害の増加がみられる。 ・発生予察は難しいので、定期防除を心がける。
	灰色かび病	← 定期防除 →									<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に予防剤を散布する。 ・葉先枯れ部、花ガラ、および罹病果の除去を徹底する。 ・収穫ピークと重なって、葉先枯れ除去ができていない場合は被害が拡大しやすい。
トマト	発生量: 並	← 定期防除 →									
	すすかび病	↓									<ul style="list-style-type: none"> ・樹勢低下や高温・多湿で発生しやすい。 ・定期的に予防剤を散布する。 ・栽培期間終了後の資材消毒は、次年度の対策に有効である。
野菜全般	タバコガ類	フェロモントラップの誘殺量 ↓									<ul style="list-style-type: none"> ・防虫ネットで被覆していても、隙間から侵入することがある。幼虫を確認したら防除を実施する。 ・露地栽培では、幼虫発生初期に防除を実施する。
	発生量: やや多	↑									
野菜全般	アブラムシ類	↓ 黄色水盤による誘殺量									<ul style="list-style-type: none"> ・高温乾燥が続くと多発する。 ・よく観察し、少発生の段階で農薬散布を実施する。 ・ハクサイやキャベツ等秋野菜では、定植時の粒剤散布により、本虫の発生を1か月間程度抑制できる。
	発生量: やや多										

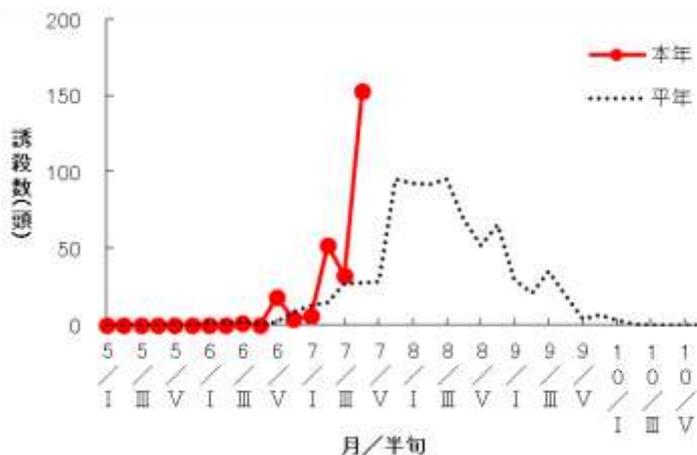
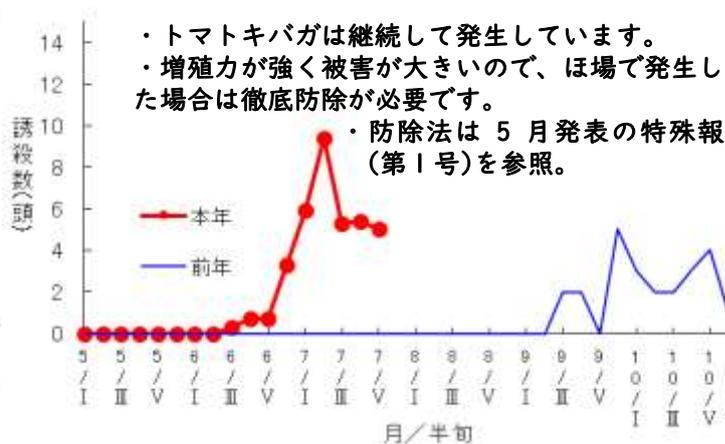


図1 予察灯によるクサギカメムシ誘殺数の推移 (高山市国府町)



・トマトキバガは継続して発生しています。
 ・増殖力が強く被害が大きいので、ほ場で発生した場合は徹底防除が必要です。
 ・防除法は5月発表の特殊報(第1号)を参照。

図2 フェロモントラップによるトマトキバガ誘殺数の推移 (飛騨市古川町)

東海地方1か月予報(7/27~8/26) 名古屋地方气象台 7月25日発表

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。期間の前半を中心に太平洋高気圧の張り出しが強いため、向こう1か月の日照時間は平年並が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。(トップページQRコード→)

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468

TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706



トップページ



BLASTAM
(いもち病情報)

6~8月は「農薬危害防止期間」です。農薬ラベルの表示事項の遵守と周辺への飛散防止を徹底しましょう。